



# 畑作・野菜・花き生産情報 第4号

令和2年7月20日  
青森県「攻めの農林水産業」推進本部

- ◎大豆ほ場の排水対策を徹底しましょう！
- ◎ながいもの追肥は、新しいもの長さを確認して適期に行いましょう！
- ◎換気や遮光をこまめに行うなど、ハウス内の適正な温湿度管理に努めましょう！
- ◎切り花の品質保持のため、収穫は涼しい時間帯に行いましょう！
- ◎曇天が続く場合は、病害の発生に注意し、予防防除に努めましょう！

## 畑作物

### 1 大豆

#### (1) 生育状況

- ア 生育は、草丈が平年並みから大幅に長いなど、順調である。
- イ 食葉性害虫の被害が散見される。

表-1 大豆の生育状況 (7月10日現在)

場所	年次	は種期 (月日)	出芽期 (月日)	草丈 (cm)	主茎長 (cm)	葉数 (枚)	分枝数 (本)
農林総合 研究所 (黒石市)	本年 (平年差・比)	5/26 (遅1日)	6/3 (早2日)	44.3 (114%)	24.6 (119%)	7.2 (+1.4)	2.8 (+1.5)
	平年	5/25	6/5	39.0	20.7	5.8	1.3
	前年	-	-	-	-	-	-
野菜 研究所 (六戸町)	本年 (平年差・比)	5/15 (±0日)	5/28 (遅3日)	57.0 (117%)	32.5 (124%)	7.5 (+0.3)	0.6 (-1.1)
	平年	5/15	5/25	48.6	26.3	7.2	1.7
	前年	5/15	5/21	49.3	28.8	6.9	1.1
藤崎町 (西中野目)	本年 (平年差・比)	5/30 (早4日)	6/7 (早6日)	52.8 (160%)	-	6.6 (+1.6)	-
	平年	6/3	6/13	32.9	-	5.0	-
	前年	5/27	6/9	29.5	-	5.0	-
五所川原市 (金木町嘉瀬)	本年 (平年差・比)	6/6 (±0日)	6/13 (早1日)	29.0 (101%)	-	4.1 (-)	-
	平年	6/6	6/14	28.8	-	-	-
	前年	6/2	6/11	23.3	-	-	-
十和田市 (切田)	本年 (平年差・比)	6/6 (±0日)	6/11 (早4日)	35.1 (125%)	-	3.4 (-0.5)	-
	平年	6/6	6/15	28.1	-	3.9	-
	前年	6/1	6/8	28.4	-	3.6	-

(注1) 品種は「おおすず」

(注2) 平年値は、農林総合研究所、野菜研究所とも過去13か年、藤崎町が過去9か年、五所川原市が過去10か年、十和田市が過去19か年の平均値

(2) 今後の管理

ア 排水対策

大雨などで滞水しないよう、明きょを手直しして排水溝へ接続するなど排水対策を徹底する。

イ 中耕・培土

生育の遅れているほ場では、速やかに中耕・培土作業を行い、生育量確保に努める。コンバイン収穫時の汚粒発生を防止するため培土高は一定に保ち、開花期（例年7月末～8月始め頃）前に終了する。

ウ 病害虫防除

べと病、アブラムシ類及び食葉性害虫などの病害虫は、発生状況を確認しながら適期防除に努める。

エ 追肥

登熟期間の気温が高く、追肥の効果が期待できる津軽地域では、窒素成分で10a当たり5～8kgの開花期追肥を行う。ただし、生育が過繁茂で倒伏のおそれがある場合は行わない。

**野 菜**

(根菜類)

1 ながいも

(1) 生育状況

ア 生育は、萌芽揃期が平年より早く、順調である。

イ 病害虫は、葉渋病、ナガイモコガ、アブラムシ類の発生が見られる。

表-2 ながいもの生育状況 (7月10日現在)

場 所	年次	植付期 (月日)	萌芽 揃期 (月日)	つるの ネット頂 到達日 (月日)	つる長 (cm)	茎葉重 (g)	いも長 (cm)	いも重 (g)	いも 最大径 (mm)
野菜研究所 (六戸町)	本年 (平均)	5/25 (1日早)	6/25 (4日早)	未 (-)	133.5 (101%)	23.5 (95%)	10.2 (100%)	3.7 (90%)	6.7 (96%)
	平年	5/26	6/29	7/20	132.0	24.8	10.2	4.1	7.0
	前年	5/24	6/24	7/22	137.5	22.8	9.3	2.7	5.8
五戸町 (上市川)	本年 (平均)	5/ 5 (8日早)	6/11 (4日早)	7/10 (2日遅)	- (-)	- (-)	19.2 (114%)	10.9 (128%)	7.6 (91%)
	平年	5/13	6/15	7/ 8	-	-	16.8	8.5	8.3
	前年	5/ 6	6/ 9	7/ 8	-	-	15.7	6.3	8.2
東北町 (野田頭)	本年 (平均)	5/14 (±0)	6/ 7 (1日早)	7/10 (2日早)	- (-)	- (-)	16.2 (134%)	7.3 (162%)	7.3 (104%)
	平年	5/14	6/ 8	7/12	-	-	12.1	4.5	7.0
	前年	5/ 8	5/30	7/22	-	-	13.4	4.5	4.6

- 注) ①平年：野菜研は平成19～令和元年の13か年の平均値  
 五戸町は平成14～令和元年の18か年の平均値  
 東北町は平成20～令和元年の12か年の平均値  
 ②種子：野菜研は園試系6の2年子(90～110g)ガンク切除  
 五戸町は庄司系の2年子(120～150g)頂芽切除  
 東北町は庄司系の1年子(80～120g)頂芽付  
 ③栽植様式：野菜研は畦幅120cm×株間24cm(3,472株/10a)  
 五戸町は畦幅120cm×株間22cm(3,788株/10a)  
 東北町は畦幅110cm×株間21cm(4,329株/10a)  
 ④東北町の萌芽揃期は萌芽期の値

## (2) 今後の管理

### ア 追肥

- (ア) 追肥は遅れると収量や品質低下の原因となるので、適期に行う。
- (イ) 追肥を開始する目安は、つる長と新しいも長を確認して判断し、特に切いもは、つるの伸長が1年子や2年子より遅れ気味となるので、必ず新しいも長を確認する。
- ① 早植栽培（頂芽付1年子、4月下旬～5月上旬植付け）
    - ・第2回目以降の追肥は、第1回目の追肥から12～14日おきを目安に行う。
    - ・追肥量は、1回当たりで窒素、加里とも成分量で10a当たり5kgを基準とする。
  - ② 普通栽培（頂芽切除、5月下旬～6月上旬植付け）
    - ・第1回目の追肥時期は、子いもでは植付後45～55日頃、切いもでは植付後55～65日頃、つる長が200～220cmで主づるの先端がネットの8分目から頂部に達し、新しいも長が10～15cmとなった頃を目安とする。
    - ・第2回目、第3回目の追肥は、第1回目から10日おきを目安に行う。
    - ・追肥量は、1回当たりで窒素、加里とも成分量で10a当たり5kgを基準とし、生育が旺盛な場合には追肥量を減らす。

表－3 追肥方法

作型 (植付時期)		早植栽培 (4月下旬～5月上旬)	普通栽培 (5月下旬～6月上旬)	
種いも		頂芽付・1年子	頂芽切除・子いも	切いも
追肥 開始 の 目安	植付後日数	60日前後	45～55日頃	55～65日頃
	新しいも長	5cm前後	10～15cm	
	つる長	150cm前後 (ネットの5分目程度)	200～220cm (ネットの8分目～頂上部)	
追肥間隔等		12～14日おきを目安に3回 1回目：6/下～7/上 2回目：7/中～7/下 3回目：7/下～8/上	10日おきを目安に3回 1回目：7/中～7/下 2回目：7/下～8/上 3回目：8/上～8/中	
		遅くとも8月20日には終了する。		
追肥量		1回当たり窒素成分で5kg/10a以内とする。		

### イ 病虫害防除

- (ア) 葉渋病、炭そ病、ナガイモコガ、アブラムシ類の発生に注意し、早期発見・早期防除に努める。
- (イ) 採種ほ場ではウイルス病の伝搬を防ぐため、10日程度の間隔でアブラムシ類の防除を徹底する。

### ウ 風水害対策

- (ア) 台風など強風や大雨に備え、ネットや支柱を補強し、明きよを手直しして排水溝へ接続するなどの対策を徹底する。
- (イ) 植溝が穴落ちした場合は、速やかに埋め戻す。

## 2 ばれいしょ

### (1) 生育状況

- ア 生育は、いも数は平年を上回っているものの、草丈、いも重が平年を下回っている。
- イ 病虫害は、疫病の発生が見られる。

表－４ ばれいしょの生育状況（7月10日現在）

場 所	年次	植付期 (月日)	萌芽期 (月日)	着蕾期 (月日)	開花期 (月日)	草 丈 (cm)	いも数 (個/a)	いも重 (kg/a)
三 沢 市 (三 沢)	本年 (平年比)	3/27 (11日早)	5/ 9 (5日遅)	5/29 (±0日)	6/11 (1日遅)	69.3 (83%)	5,192 (139%)	309 (88%)
	平年	4/ 7	5/ 4	5/29	6/10	83.6	3,725	352
	前年	4/ 6	5/ 5	5/26	6/ 8	78.6	3,791	388

注) ①平年：平成19年、平成21～24年、平成26～令和元年の11か年の平均値  
 ②萌芽期の平年：平成21～24年、平成26～令和元年の10か年の平均値  
 ③品種：メイクイン  
 ④作型：マルチ栽培

## (2) 今後の管理

### ア 収穫

(ア) 収穫は、茎葉が黄変し、枯れ上がってから10日後位に行う。

(イ) 掘り取ったいもは、速やかに風通しの良い冷暗所に収納し、厚く積まないで広げておく。

(ウ) 早掘栽培では、収穫の5～7日前に茎葉を刈り取るか抜き取り、いもの表皮をコルク化させてから収穫する。

### イ 病害防除

曇雨天が続くと、疫病が急激に増加するため、収穫まで期間がある場合は、7～10日おきに降雨の合間をぬって予防防除を行う。

## 3 ごぼう

### (1) 生育状況

ア 葉数は平年を下回っているものの、草丈は平年を大幅に上回っており、生育は順調である。

イ 病害虫の発生は見られない。

表－５ ごぼうの生育状況（7月10日現在）

場 所	年次	は種期 (月日)	草 丈 (cm)	葉 数 (枚)
三 沢 市 (三 沢)	本年 (平年比)	4/24 (5日早)	95.8 (151%)	3.3 (85%)
	平年	4/29	63.5	3.9
	前年	5/ 4	62.2	3.7

注) ①平年：平成21～令和元年の11か年の平均値  
 ②品種：柳川理想

## (2) 今後の管理

### ア 病害虫防除

黒斑細菌病、黒条病、アブラムシ類の発生に注意し、早期発見・早期防除に努める。

### イ 追肥

追肥を予定している場合は、生育を見ながら適切に行う。

## 4 夏だいこん

### (1) 生育状況

6月末～7月初めの降雨により、は種作業が一時中断したものの、その後は順調に作業が進み、出芽も良好である。

(2) 今後の管理

ア 病害虫防除

軟腐病、キスジノミハムシの防除を徹底するとともに、コナガ、アオムシなどの害虫の早期発見・早期防除に努める。

イ 排水対策

台風や大雨に備え、明きょを手直しして排水溝へ接続するなど、排水対策を徹底する。

(果菜類)

5 夏秋トマト (雨よけ栽培)

(1) 生育状況

ア 6月下旬から7月上旬の日照不足の影響により、収穫がやや遅れている。

イ 葉先枯れやガク枯れのほか、花落ち、窓あき果、コルクが大きい果実が見られている。

ウ 病害虫は、灰色かび病の発生が多く、葉かび病やアザミウマ類の発生も見られる。

表-6 トマトの生育状況 (7月10日現在)

場 所	年次	定植期 (月日)	1 段花房		3 段花房		5 段花房	
			開花期 (月日)	着果数 (個)	開花期 (月日)	着果数 (個)	開花期 (月日)	着果数 (個)
五所川原市 (藻川)	本年 (平年比)	5/ 2 (±0日)	5/ 8 (2日遅)	3.4 (100%)	5/29 (3日遅)	2.9 (94%)	6/13 (2日早)	2.7 (113%)
	平年	5/ 2	5/ 6	3.4	5/26	3.1	6/15	2.4
	前年	5/ 3	5/ 3	3.5	5/23	2.9	6/16	2.1
三戸町 (斗内)	本年 (平年比)	5/11 (4日早)	6/ 2 (6日遅)	4.8 (133%)	6/18 (1日遅)	3.7 (112%)	7/ 8 (4日遅)	— ( — )
	平年	5/15	5/27	3.6	6/17	3.3	7/ 4	2.7
	前年	5/ 7	5/13	3.3	6/ 7	3.1	7/ 1	2.6
場 所	年次	7 段花房		収穫期				
		開花期 (月日)	着果数 (個)	始め (月日)	終わり (月日)			
五所川原市 (藻川)	本年 (平年比)	7/ 2 (1日遅)	— ( — )	6/26 (2日遅)	— ( — )			
	平年	7/ 1	2.9	6/24	10/26			
	前年	7/ 2	3.3	6/21	10/16			
三戸町 (斗内)	本年 (平年比)	— ( — )	— ( — )	7/12 (2日遅)	— ( — )			
	平年	7/22	2.3	7/10	10/22			
	前年	7/19	3.4	7/ 1	11/ 3			

注) ①平年：五所川原市は平成29～令和元年までの3か年の平均値

三戸町は平成20～令和元年の12か年の平均値

②品種：五所川原市は桃太郎セレクト (台木：Bバリア)、三戸町はりんか409 (自根)

(2) 今後の管理

ア 追肥・かん水

(ア) 追肥及びかん水は、水分要求量が高まる午前8～9時頃に行う。

(イ) 液肥の場合、1回当たりの追肥量は、窒素成分で10a当たり0.5kgを目安とし、1～3日おきぐらいに行う。曇雨天が続く場合は、肥効が早い硝酸態窒素の多く入った肥料を使用する。

(ウ) かん水量は、1株当たり1.5リットルを基準に、天候を見ながら毎日～3日おきで行うが、予想最高気温が28℃以上の日は、水分要求量が高いので1株当たり2.0リットルとする。

(エ) 支柱誘引やUターン誘引で無摘葉とする場合は、生育が進むにつれて葉の繁茂量が多くなるので、かん水と追肥をそれぞれ慣行より1～2割程度増やす。

(オ) 高温が続くと、着果不良が発生したり、裂果しやすい果実ができるので、通路にかん水する。

ただし、土壌の乾燥が著しい場合に、大量に通路かん水すると軟果が発生するので、最初は深さ1～2cmまで湿る程度にかん水し、2～3日経過してから深さ約5cmまで湿る程度にかん水する。

#### イ 温度管理

ハウス内の高温に注意し、サイドの開放と併せて、肩換気やツマ面換気も行う。

#### ウ 病害虫防除

(ア) ハウス内の湿度が高かったり、草勢が低下すると、灰色かび病、葉かび病が蔓延しやすくなるので、計画的に防除するとともに、次の対策を行う。

①換気を行う

②通路にマルチを敷く

③株元の通風を良くするため、収穫が終了した果房の下葉を摘葉する

④摘果、誘引、追肥などの作業を適期に行い、草勢維持に努める。

(イ) 農薬による防除は、薬剤耐性菌が出現しないよう、作用性の異なる薬剤を組み合わせるローテーション散布を行う。

(ウ) 今後、アザミウマ類、タバコガ類の発生が多くなるので、早期発見・早期防除に努める。

## 6 メロン

### (1) 生育状況

ア トンネル栽培（4月下旬～5月上旬定植）の生育は、順調である。

イ 病害虫は、べと病、うどんこ病、つる枯病が散見される。

表－7 メロンの生育状況（7月10日現在）

場 所	年次	定植期 (月日)	主 づ る 長 (cm)	主 づ る の 葉 数 (枚)	着果期 (月日)	収穫期 (月日)
つ がる 市 (木 造)	本年 (平軌)	5/ 8 (3日遅)	220.4 (105%)	26.1 (104%)	6/14 (2日早)	－ －
	平年	5/ 5	209.3	25.1	6/16	7/30
	前年	5/ 4	197.1	25.6	6/15	7/28

注) ①平年：平成26～令和元年の6か年の平均値

②品種：タカミ（台木：スーパーエースストロング）

### (2) 今後の管理

#### ア 萎れ対策

遮光資材を活用し、高温による萎れや果実の日焼けを防ぐ。

#### イ 適期収穫

(ア) 収穫は、着果後の日数や外観のほか、試し切りを行い、糖度・肉質の状況を確認して総合的に判断し、果温が低い朝夕に行う。

(イ) 収穫が遅れると発酵果や裂果が発生し、貯蔵性の低下につながる所以十分注意する。

#### ウ 病害防除

(ア) べと病、黒斑細菌病、アブラムシ類などの発生に注意し、早期発見・早期防除に努める。

(イ) やむを得ず連作した畑では、雨天が続くとつる枯病が発生しやすいので、防除を徹底する。

(葉茎菜類)

7 ねぎ

(1) 生育状況

- ア 生育は、3月下旬定植では、草丈、茎径ともに平年を下回っており、4月下旬定植では、草丈、茎径が平年を上回っている。
- イ 病害虫は、べと病、さび病、斑点性病害、ネギコガ、アザミウマ類、ハモグリバエ類の発生が見られる。

表-8 ねぎの生育状況 (7月10日現在)

場 所	年 次	は種期 (月日)	定植期 (月日)	草 丈 (cm)	茎 径 (mm)	収穫期 (月日)
八 戸 市 (是 川)	本年 (平年比)	12/26 (17日早)	3/21 (6日早)	96.6 (97%)	18.3 (88%)	— (日早)
	平年	1/12	3/27	99.2	20.8	7/22
	前年	12/26	3/22	91.2	19.7	7/10
十 和 田 市 (洞 内)	本年 (平年比)	2/ 5 (11日早)	4/28 (1日早)	88.3 (119%)	22.5 (141%)	— —
	平年	2/16	4/29	74.0	16.0	9/21
	前年	2/ 5	4/23	82.7	19.7	8/26

注) ①平年：八戸市は平成15～令和元年の17か年の平均値  
十和田市は平成17～令和元年の15か年の平均値  
②品種：夏扇パワー

(2) 今後の管理

ア 病害虫防除

べと病、黒斑病等の発生に注意し、早期発見に努め、各病害虫に効果的な薬剤を選択し、防除を徹底する。

イ 培土・追肥

- (ア) 生育の進み具合に応じた培土や追肥を行う。
- (イ) 最終培土は、太さ20～22mm、収穫20～30日前を目安に行う。

花 き

1 夏秋ギク

(1) 生育状況

生育は順調である。  
病害虫では灰色かび病、アブラムシ類、アザミウマ類が散見される。

表－9 夏秋ギクの生育状況（7月10日現在）

場 所	年 次	品 種	定植月日 (月日)	草 丈 (cm)	葉 数 (枚)	備 考
新郷村	本 年	精の一世	4月27日	103.0	53.2	1本仕立て
	平 年	精の一世	4月18日	107.2	53.4	
五所川原市	本 年	岩の白扇	4月15日	102.8	39.6	2本仕立て
	前 年	岩の白扇	4月18日	112.3	45.4	2本仕立て

(注) 新郷村の平年値：平成26～30年度の平均値。本年から担当農家の変更により参考値。  
 五所川原市の平年値：平成30年から場所の変更によりなし。  
 五所川原市の前年値：前年からはほ場を変更したため参考値。

## (2) 今後の作業

### ア 病害虫防除

白さび病は、発らい時から発生しやすくなるので、換気をこまめに行うなど予防に努めるとともに、早期発見・早期防除に努める。

アブラムシ類、アザミウマ類、ヤガ類、ハモグリバエ類、ハダニ類の発生に注意し、早期発見・早期防除に努める。

### イ 収穫

切り前は3分咲きを目安とするが、出荷先により異なるため事前に確認する。

降雨により濡れた場合は、輸送中に腐敗する恐れがあるので、十分に風乾してから箱詰めする。

## 2 秋ギク

### (1) 生育状況

定植後の生育は順調である。病害虫の発生は見られない。

### (2) 今後の作業

#### ア 定植後の管理

- ・ハウス内が高温・過湿にならないように換気するほか、循環扇、寒冷しゃ等を活用し、適正な温湿度管理に努める。
- ・活着までは葉水(はみず)程度のかん水をこまめに行う。
- ・活着後から発らい前までは、ほ場の乾燥状況を見ながら十分にかん水する。

#### イ 病害虫防除

夏秋ギクに準ずる。

## 3 トルコギキョウ

### (1) 生育状況

- ・生育は順調である。
- ・病害の発生は見られず、害虫はヨトウムシ類等が散見される。



表-10 トルコギキョウの生育状況（7月10日現在）

場 所	年 次	品 種	定植月日	草 丈 (cm)	節 数 (節)
青森市	本 年	北斗星	4月7日	48.2	14.0
	前 年	北斗星	3月30日	45.7	12.8
	平 年	—	—	—	—
田舎館村	本 年	ボヤージュピノク	4月22日	41.6	15.1
	前 年	セブピノク	4月24日	45.2	13.3
	平 年	—	—	—	—

(注) 青森市の平年値：昨年から品種が変更されたため、平年値なし  
 田舎館村の平年値：本年から品種が変更されたため、平年値なし

## (2) 今後の作業

### ア かん水

発らいまでは乾燥させないように適宜かん水し、発らい後はしおれない程度にかん水を減らし軟弱徒長を防ぐ。

### イ 温度管理

ハウス内が高温・過湿にならないように換気するほか、循環扇、寒冷しゃ等を活用し、適正な温湿度管理に努める。

### ウ 側枝等の整理

不要な側枝は早めに摘み取る。また、1番花も早めに除去し、上位節から発生する分枝の伸長を促す。

### エ 病虫害防除等

アザミウマ類やヤガ類の発生が多くなる時期なので、早期発見・早期防除に努める。

### オ チップバーン対策

チップバーンの発生しやすい品種では、カルシウム剤を葉面散布する。

### カ 収穫

涼しい時間帯に収穫し、速やかに鮮度保持剤による前処理を行う。

畑作・野菜・花き生産情報第5号は令和2年8月20日発行の予定です。

◎ほ場を見回るなど農作物の盗難防止に努めましょう。

◎農作業中は熱中症に気をつけましょう。

1 日中の暑い時間帯は作業を避けるとともに休憩をこまめにとる！

2 通気性の良い作業着や帽子を着用し、汗で失われる水分や塩分を十分に補給する！

◎『日本一健康な土づくり運動』展開中！ ～元気な作物は健康な土が育みます～  
 土壌診断に基づいた適正施肥や土壌改良は、施肥コストの低減にもつながります！  
 緑肥を活用し、作物の生育に好適な土壌環境づくりを心がけましょう！

効率よく堆肥を使い、堆肥の肥料成分を考慮した化学肥料の低減に努めましょう！

◎令和2年度青森県農薬危害防止運動展開中（5月1日～8月31日）

農薬を使用する前には必ず最新の農薬登録内容を確認し、使用基準を守って使用しましょう。また、散布の際は周囲に飛散させないよう細心の注意を払いましょう。

クロルピクリン剤など土壌くん蒸剤を使用する際は、住宅、畜舎等に近接する農地での使用は避け、薬剤の施用後は速やかにシート（厚さ0.03mm以上または難透過性の資材）で被覆しましょう。

市販されている除草剤のうち、「非農耕地専用除草剤」は、農作物等の栽培管理に使用できないので、注意しましょう。

農薬情報([http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n\\_info/](http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_info/))

農薬登録情報提供システム

【詳細検索】 (<http://www.acis.famic.go.jp/search/vtllp301.jsp>)

【作物名検索】 (<http://www.acis.famic.go.jp/search/vtllp101.jsp>)

◎食中毒を防ぐため、生産段階から「野菜の衛生管理」に努めましょう。

1 栽培に使用する水の衛生管理や水質の確保に努めましょう。

2 家畜ふん堆肥は、水分調整や定期的な切り返しを行い、十分発酵させましょう。

家畜ふん中の菌の死滅には、55℃以上の温度が3日以上続いている状態が必要です。

堆肥の製造工程では、この温度条件を確認しましょう。

3 家畜ふん堆肥を野菜栽培に使用する際は、製造工程や熟成度を確認しましょう。確認できない場合には、堆肥施用から収穫までの期間を、収穫部位が土壌から離れた野菜は2か月以上、土壌に近い野菜は4か月以上空けましょう。

4 農機具や収穫容器等は清潔な状態を保ち、汚水の流入や野生動物の侵入防止等、栽培環境の整備にも努めましょう。

※ 野菜の衛生管理指針、家畜ふん堆肥の生産・利用の注意点はこちら

→ (<http://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/nourin/sanzen/>

[kachikuhunntaihiseizoukanritenminaooshi.html](http://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/nourin/sanzen/kachikuhunntaihiseizoukanritenminaooshi.html))

◎農業保険に加入し、農業経営に万全の備えを！！

農業保険には、農作物共済、園芸施設共済、農業経営収入保険などがあります。自分の経営にあった保険を選択、加入して、自然災害をはじめとしたリスクに備えましょう。

1 農作物共済、畑作物共済

「農作物共済」は水稻・麦を対象として、「畑作物共済」は大豆・ホップを対象として、災害による収穫量の減少に対する損害を補償します。

2 園芸施設共済

「園芸施設共済」はガラス室・プラスチックハウスと附帯施設、施設内農作物を対象として、災害による施設被害と農作物の損害を補償します。

なお、「園芸施設共済」は生産者部会等の集団で加入すると掛金が割引になる等、各種割引メニューがあります。

台風前の6月と降雪前の11月は『災害に強い施設園芸づくり月間』です。

昨年度に比べ、補償金額の引上げや小損害に対する補償が手厚くなりますので、災害に備え「園芸施設共済」に加入しましょう。

3 農業経営収入保険

「農業経営収入保険」は、災害による減収に加え、市場価格の低下など農業者の経営努力では回避できない理由により販売収入が減少した場合も補償の対象になる総合的なセーフティネットです。新型コロナウイルス感染症の影響により、収入が減少した場合も補償の対象となります。（青色申告の実施が要件）

※ 詳しくは、お近くの農業共済組合までお問い合わせください。

---

---

連絡先	農産園芸課
	稲作・畑作振興グループ
県庁内線	5073
直通	017-734-9480
	野菜・花き振興グループ
県庁内線	5076
直通	017-734-9481

---